

# 戦 評

大会名 平成28年度第13回東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』

【6人制男子】

期日：平成28年10月23日  
会場：つがる市柏総合体育センター

福 島 2 { 25 — 23 } 0 東芝メディア機器  
(福島県) { 25 — 23 } クラブ  
(青森県)

試合時間 0 時間 48 分

主 審 浅野 修平(宮城県)

副 審 石垣 周(山形県)

## 戦 評

第1セット、地元東芝メディア機器クラブが14-20と大きくリードされるが、ここから終盤にかけて8番セッター笠井の巧みなトスワークから1番工藤、5番小田桐のサイドアタッカーが踏ん張ったものの23-25で福島が先取。

第2セット、両チーム一步も引かずサイドアウトの連続で中盤12-12までシーソーゲームが展開される。福島は4番羽染、5番渡邊のサイドアタッカー陣が得点し一步リード、さらに2番信成の2本の連続サービスエースで22-17とリードする。

一方の東芝メディア機器クラブも10番堀内のブロックなどで21-23まで点差を縮めるが最後は福島が最後までしつこく粘る東芝メディア機器クラブを突き放し、このセットも奪い6年ぶり2回目の優勝を飾った。

戦評者 浅妻 誠(秋田県)

東北クラブバレーボール連盟

# 戦 評

大会名 平成28年度第13回東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』

【6人制女子】

期日：平成28年10月23日

会場：つがる市柏総合体育センター

こまちレオニーノ 秋田 (秋田県)	2	$\left\{ \begin{array}{l} 25 - 13 \\ \text{---} \\ 25 - 22 \end{array} \right\}$	0	青森BLOOM (青森県)
試合時間 0 時間 43 分				

主 審 工藤 治 (青森県)

副 審 添田 直氏 (福島県)

## 戦 評

第1セット序盤、こまちレオニーノ秋田は1番小松、青森BLOOMは3番浪岡のエースにボールを集める展開になるが、青森BLOOMの繋ぎのミスもありこまちレオニーノ秋田がリードする。

青森BLOOMは1番津幡、3番浪岡の時間差攻撃やバックアタックで立て直しを図るが、堅い守備から5番舩田のライト平行などで多彩に切り返すこまちレオニーノ秋田がリードを保ったままこのセットを奪う。

第2セットはサーブで攻める青森BLOOMと、エースにボールを集めて主導権を握ろうとするこまちレオニーノ秋田の立ち上がりとなった。青森BLOOMは9番秋田の連続スパイクサービスエースや3番浪岡の活躍で中盤はリードするが、こまちレオニーノ秋田は10番志摩やリベロ小玉の好レシーブから1番小松が終盤まで高打点のスパイクを決め続け、粘る青森BLOOMを振り切って初優勝を飾った。

戦評者 田中 哲 (岩手県)

東北クラブバレーボール連盟

# 戦 評

大会名 平成28年度第13回東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』

【9人制男子】

期日：平成28年10月23日  
会場：五所川原市民体育館

ワタナベスポーツ クラブ (福島県)	2	{ 22 — 20 — 21 — 12 }	0	北 上 (岩手県)
試合時間 0 時間 48 分				

主 審 川村 陽平(青森県)

副 審 木村 栄一(秋田県)

## 戦 評

この大会、優勝経験のある2チームの対戦となった決勝戦。

1セット目、レフト小林、ライト高村の両サイドからの強打で攻めるワタナベスポーツクラブと、中央からの速攻にレフト大嶋、ライト後藤の両サイドエースの攻撃を絡める北上と、お互い点の取り合いが続く白熱した試合展開で終盤まで進む。

20-20のデュースからワタナベスポーツクラブは、キャプテン及川のサービスエースと高村の強打で接戦を制しこのセットを奪う。

2セット目、ワタナベスポーツクラブは前のセットの勢いそのまま出だしで村山の連続サービスエースなど4連続得点で先行する。なんとか流れを変えたい北上であったが、ワタナベスポーツクラブはレフト小林らの攻撃で終始リードを保ったまま最後は遠藤がサービスエースを決め、6年ぶり2回目の優勝を飾った。

戦評者 佐藤 智史(青森県)

東北クラブバレーボール連盟

# 戦 評

大会名 平成28年度第13回東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』

【9人制女子】

期日：平成28年10月23日  
会場：五所川原市民体育館

山形クラブ (山形県)	2	{ 21 — 15 — 21 — 9 }	0	teamみやぎ (宮城県)
試合時間 0 時間 47 分				

主 審 藤田 真一(青森県)

副 審 加藤 雅基(宮城県)

## 戦 評

昨年度3連覇を阻まれた宿敵NOK福島との準決勝を接戦の末しぶとく勝ち上がった山形クラブと第11回大会からの参加ながら着実に力を付けてきたteamみやぎとの対戦となった決勝戦。

1セット目、序盤はお互いに強いサーブで守りを崩す展開で互角の展開が続く。11-11から山形クラブは平えり子や真石の早い攻撃と連続ブロックで抜出すと、セッター平久美子が多彩なトスワークで相手のブロックを翻弄し幅広い攻撃を展開、teamみやぎも必死の守りからレフト油井にボールを集め中心に反撃するが、相手の勢いは止まらず山形クラブがこのまま先取。

2セット目、序盤に大河原や竹内のサーブで流れを掴んだ山形クラブは、ここから更に鈴木、井上の安定した守りからレフト坂井を中心に中央からの攻撃を交えた多彩な攻撃で攻め続ける。

Teamみやぎもライト紺野らが反撃を試みるが、総合力に勝る山形クラブがこのセットも圧倒し、2年ぶり6回目の9人制女子の東北チャンピオンに輝いた。

戦評者 倉成 洋平(青森県)

東北クラブバレーボール連盟